南大和グループ広報誌 | MinamiYamato Group Public Relations Magazine TAKE FREE

みなみやまと

2022.1
77

特集 南大和病院 新年にあたり

病院長 茅野 修史 ごあいさつ

表紙のひと
茅野 修史 病院長

回接種しました。さらに3回目の接種も行います。ワクチンの注意点と致しましては、ワクチン接種後の感染も多く見られますので、引き続き3密を避けるなどの感染予防は必要です。

現在では型コロナウイルスに対する理解が進み、個人レベルでコロナ感染にどのように対処するかなどの具体的な考えが出てきました。例えば3つの感染リスクの高い行動をとるなどの判断ができるようになりました。感染リスクの高い「密な空間での大勢での宴会」は、コロナの感染が収まるまで控えた方が良いでしょうし、人生を彩る大事なものですし、楽しいものなので、少人数で短時間で密にならないように工夫して、流行中ではいけない可能性があります。そこで高齢者は相変わらず注意が必要でしょう。

一方、病気はコロナ肺炎だけではありません。他の診療がおろそかにならないように、昨年は南大和グループ内でも様々な施策を講じました。手術センターを新編し、低侵襲で最先端の腹腔鏡手術をいち早く導入しました。高度クリニックでは透析ベッドを6床から32床に増やしました。また、新棟を高度センターとして、新たに最先端の手術機器を導入し、救急医療を強化しました。例えば、脳卒中センターでは最先端の血管内治療ができるようになりました。総合在宅センターでは、包括的に訪問診療、看護、リハビリ、介護を提供しています。

また、地域で子育て世代が安心して暮らせるように、病児保育室を開設しました。病児保育室は、病気の子どもさんを預かることも出来ますし、日本で初めて会話が可能なアバターロボットを導入しました。

同じ地域に住む人々に、分け隔てなく医療介護を提供するために、今年は昨年以上に地域の皆様と連携を深めていきたいと思っております。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、一昨年のクリスマスおよび年末年始の病院は緊張感に満ちていました。今年は昨年の教訓を活かし、万全の体制で臨んでいます。

2022年の1月から感染症法の分類が2類相当から5類に変更されます。これにより、感染者の入院勧告や就業制限が撤廃されます。日本の保健医療体制を強化するための変更です。

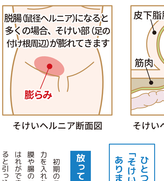
入院は2類相当のままですが、入院基準が緩和されます。当面は軽症から中等症の患者さんを入院させる方針に変更されます。

南大和グループは40年、地域の皆様に支えられてきました。今年は、これまでの感謝の気持ちを込めて、地域の皆様のお役に立てるような企画を考えております。

市民講座 開催報告

2021年1月17日（月）大和市文化創造拠点シリウス 芸術文化ホール 大和市渋谷学習センター目的のホールにて、実施いたしました。

2年ぶりの市民講座を開催いたしました。今回は病院長、特別講演としてご講演いただきました。当日は朝から冷たい雨が降る寒い日でしたが、多くの方にご足を運んでいただきました。当日は朝から冷たい雨が降る寒い日でしたが、多くの方にご足を運んでいただきました。



そけいヘルニア

地域の医療を支える南大和病院。
適切な治療と高度な技術で
人々を支えています。
今回は「そけいヘルニア」について
手術センター長の南大和医院院長に
お話を伺いました。

こんな症状はありませんか？

1. 下腹部のもり上がり
仰向けになり、押したりするとお腹の中に戻ります。
2. 下腹部の痛み
お腹に力を入れた時に、下腹部が痛む。
3. 下腹部の違和感
長時間立っていると下腹部の違和感が出てくる。
4. 陰嚢の腫大
男性の場合、陰嚢が片方だけ大きくなってきた。

ひとつでも当てはまる場合は「そけいヘルニア」の可能性があります

放っておいても大丈夫？

初期のころは「立った時」「お腹に力を入れた時」に限定的に症状が出ますが、腹圧がかかり続けると、腸や膀胱の一部などが出口を広げながら出てきます。普通は腸が出てきても痛みを感じることはありません。

治療法は？

そけいヘルニアを手術で治す完治治療しかありません。当院では体に負担の少ない手術として普及する「腹腔鏡手術」を行っています。

腹腔鏡手術は皮膚に小さな穴を開けて、お腹の内側から治療を行います。傷が小さいというメリットもありますが、最大の長所は「回復が早い」ということです。術後の痛みが軽いため、すぐに歩けるようになり、早期の退院も可能です。

当院では、さらに腹腔鏡手術の中でも、腹の筋肉の間を通して治療する「腹膜前腔鏡手術」を行っています。腹膜前腔鏡手術は、お腹の内側にメッシュを入れるだけで治療が終了するため、術後の痛みが少ないなどの利点があります。

そけいヘルニアとは？

そけいヘルニア（鼠径ヘルニア）とは、お腹の筋肉の弱いところから腹膜や腹膜の一部が出てきてしまう病気です。病気というほどではありますが、病気の進行は遅く、すぐに命に関わるような病気ではありません。

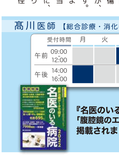
その原因のほとんどは、つまり先天的な弱さによるものです。成人の場合は加齢により筋肉が弱くなることが原因で、40代以上の男性に多く見られる傾向があります。乳幼児の場合は、生まれつき筋肉が弱いため、以下の男性に比べ女性の方がサイズが小さく、比較的発症しやすいとされています。

その他の原因としては、つまり重い物を持ち上げる際に、いきむことで腹圧が上がり、筋肉が弱くなってしまうことが挙げられます。

熟練の医師が集う手術センター

「仕事に応じて腰痛が出た」「治療費を抑えたい」「肥満の人も安心して受けられる」など、様々なお悩みを抱えた患者様を受け入れる手術センターです。

『名医のいる病院 2022』に高川医師が「腹腔鏡のエキスパート」として掲載されました！



そけいヘルニア断面図

そけいヘルニア内部断面図

部署紹介： 南大和グループのさまざまな仕事をご紹介いたします。

南大和 認定栄養ケア・ステーション

南大和グループ病院・施設の栄養管理業務の統括や中心的役割を担う部署です。管理栄養士・栄養士が在籍しており、入院患者様、外来患者様、通所リハビリテーション利用者様、訪問栄養食事指導を受けられる患者様など、様々な患者様の栄養管理を行っております。

管理栄養士が患者様に対して行う栄養管理業務のことを「栄養ケア」と言います。「栄養ケア」とは、ただ食事を提供するだけではなく、栄養状態をアセスメントし、栄養診断を行い、栄養介入を行ってモニタリングしていくという一連の流れのことを言います。

栄養ケアの目的は、患者様の栄養状態を改善することで、病気の治療効果を高めたり、合併症を予防したりすることです。

また、栄養ケアを行うことで、入院期間の短縮や、在宅復帰率の向上、再入院率の低下、医療費の削減などの効果があります。

南大和グループでは、栄養ケアを行うことで、入院患者様の栄養状態を改善し、病気の治療効果を高めたり、合併症を予防したりすること